

県研究主題

生徒一人ひとりの生きる力をはぐくむ指導計画及び指導の工夫・改善

提案 1

提案者 石川 絵美(中地区)

〈研究主題〉

生徒一人ひとりの生きる力をはぐくむ指導計画及び指導の工夫・改善

～探究的な学習・言語活動の充実をめざして～

1 提案内容

(1) 学習指導要領で求められている「体験活動」「言語活動」の充実を、いかに探究的な活動の学習過程に組み込むか、指導の工夫や改善が求められている。

① 指導計画の工夫

② 各教科との関連

「平和学習」に関連して国語科、社会科、英語科など各教科等で取り組んでいる。

③ 探究活動や体験活動を生かす課題の設定

(2) 金目中学校の実践

① 3年の広島への修学旅行から学ぶ平和学習、職場体験学習をふくめたキャリア教育が学習の中心である。教科学習でも「平和学習」を組み込む工夫がされている。

② 各学年での取り組み

・1年次

平塚大空襲(地元)についての学習を行う。国語科「礎」の学習では被爆した中学生に宛て手紙を書き、3年次の修学旅行で持参し慰霊碑に奉納している。

横浜校外学習 「新聞博物館」(新聞づくりの基礎を学ぶ。展示テーマによる平和学習)「平和祈念館」(体験者との交流)

・2年次

東京大空襲の学習。東京郊外学習では「昭和館」の訪問、体験者による講話、原爆についての学習

・3年次

広島修学旅行 事前には今までの学習を活かし課題に沿った「平和学習レポート」の作成。原爆ドーム平和記念公園・広島平和記念資料館の見学、語り部によるガイド。英語教科書「Sadako」を学習し、事前に作成した折り鶴を奉納する。

③ 探究活動

課題設定については、始めから生徒が個人で設定することは困難である現状であり、教師側の例示から生徒が選択し、各自で設定している。どのようにして課題設定をする力を身につけさせるかが今後の課題である。

また、修学旅行や校外学習における、探究活動の位置づけは、特別活動とのすみ分けとしても重要と考え配慮している。

修学旅行の前後での教科による学習による補完で、事前のレポートとはさらに深まった内容が「平和文集」に見ることができる生徒もいる。

2 協議内容

(1) 質疑応答

Q 新聞博物館での学習は効果的か。

A 博物館で作成する新聞は、1枚、1部分にすぎないが、うかがったお話や割り付けの工夫などが、学校でのその後の新聞作成に生かされている。

Q 課題の例示について

A 教師側での例示を行っている。各学年において、1年次も「戦争と子どもたち」「戦争と原子爆弾」「戦争中の暮らし」など教師側の例示を行い、そこから各自が課題を設定している。

Q 年間指導計画。1学年の展開において、平和学習の発表後、職場体験、学習後の平和学習の設定はどのような意図があるのか。

A 職場体験学習をはさみながらも、記憶に残るようにと適宜DVDの視聴などを行い、2年次への学習へつなげていこうとしている。

Q 3年間の「平和学習」ではあるが、大空襲、被爆と日本の被害が誇張されていないか。それ以外の学習は。将来への展望は。

A DVDの視聴や道徳、各教科等との取組で関連を補っている。学習の過程では、被害が誇張されるときもあるが、道徳での取り組みを加えるなどし、3学年の最後では広い視点での見方が身に付く生徒もいる。研究としても途上である。

(2) 探究的な学習を充実させる「課題の設定」の工夫について

- ・課題設定は重要である。教師がヒントを与えることによって、考えさせる必要がある。「…について」は、課題としては不十分である。そこに教師側の働きかけが重要。
- ・教師は核になる言葉を与え、生徒がウェビングによってキーワードを見出させることをしていた。
- ・上級生の発表に下級生が参加する。既成事項ばかりでなく、課題の広がりを見つけるきっかけとなる。
- ・課題を見出させる力を身に付けさせる力や場面を教師が設定する必要がある。生徒が「平和」について考えたいような素材になっているのか。考えさせる、探究活動に足る素材の提示の工夫が重要と考える。

3 まとめ

2年次の学習では一方的な思いで振り返りを記していた生徒たちが、学びを重ねる中で3年次の最後には思いの変容を見ることができる。

解説書 p 87 「探究活動」によるように、2年3年生の二巡目のスパイラルでは課題の設定についても、3年間の平和学習を続ける中で工夫されている。

提案2

提案者 福島 美菜 大村 慎太郎（横須賀地区）

テーマ

「地域性や学校の特性を生かした探究的・協同的な学習を通して、学び方やものの考え方が身につけられるような指導方法の追求」

～ 分析・伝達の充実を図り、主体的な活動につなげる手立て ～

1 提案内容

横須賀市総合的な学習の時間部会は、探究的・協同的な学習から、生徒が学び方やものの考え方を身につけられるような指導方法の研究を行っている。横須賀市立坂本中学校より中学1年生の「地域調べ」の実践を中心にテーマに迫る提案をいただいた。

(1) 研究テーマ及びテーマ設定の理由

坂本中学校では年度当初に中学1年生を対象に、総合的な学習の時間で身につけさせたい内容を項目とした生徒向けアンケート調査を行った。アンケート調査から生徒が苦手と感じている項目として「分析すること」「伝達や説明すること」があげられた。これらの苦手とされていることについては、他者から認められ、成長していると感じる学習を積み重ねることで、生徒は活動に主体的に取り組むのではないかと考えた。今後の授業の展開の上でも自分たちで収集した情報を分析し、自らの意見を発信することが必要となる。このような活動を通して、生徒自身が自らの考えや意見を持ち、2年生で実施される職場体験学習にもつなげていくことができると考えた。

(2) 研究内容

① 指導方法の工夫

- ・分析する力を伸ばすための手立て

集めた資料や多様な意見を分析し、新しい考えを構築していくことを学ぶ機会を単元内に数回取り入れていくことで、分析する力を伸ばすことにつながると考えた。

小集団で他の人と関わりながら、情報を整理し、因果関係を導きだしながら、付箋紙を活用し多面的な視点で分析できるようにした。

- ・伝達する力を伸ばすための手立て

個人で設定した課題をレポートとしてまとめ、その内容を小集団で伝えたい内容を説明し合う。

② 授業実践

- ・分析する力

小集団の発表では班員が他の班に派遣する「派遣員方式」を用いた。派遣された話し手は、聞き手から助言を付箋紙に記入してもらい、それを班員で自分たちの発表内容に対する改善点や説明をする上で気づいたことを検討し分析していった。分析にあたり、「話し方」「内容」を横軸に、「成果」「課題」を縦軸にしたシートを用いた。

- ・伝達する力

「派遣員方式」により、繰り返し実践していくことでポイントをクイズ形式にしたり、説明の順序や抑揚をつけたりとした工夫をしていくようになった。また、助言も「良かった点」と「気をつけた方がよい点」を明確にして伝えられるようになった。

(3) 研究結果

授業後の生徒の振り返りシートには「自分たちの話がしっかりと伝えられてとても楽しかった」「発表はあまりやったことがなかったので、いい経験ができ話すことや聞くことの知識が身につきました」等の前向きな感想が多くみられた。

今回の実践が生徒にとって分析すること、説明・伝達することに対して、それまで抱いていた苦手意識を克服するきっかけになったといえる。この経験を通してスキルや分析の方法を今後の活動でさらに育み、より確かな力として身につけていけるような指導を

めざしていく。

2 協議内容

・分析する力を高める取組について

分析シートを用いて、生徒たちが自分たちの変容を実感できるように工夫されている点
がたいへん参考になった。学級の中で、発表する力をお互いに向上させて行かれる取組にな
っているので、今後1年、2年、3年と継続して続けながら、テーマも学年に応じて掘り
下げていくことができれば、大きな力がついていくことができるという意見や感想が多か
った。ただし、その一方で発表する「スキル」を養うことに段階的にレベルアップする明
確な指導の手立てがとられているが、生徒が「どのように伝達するのがいいのだろう」と
考えることは、果たして「探究的」といえるのかという疑問もあげられた。生徒の「生き
方」につながる「探究」に迫れるといいのではないか。今後の取組に期待したい。

・実践について

今年度の1年生からの新たな取り組みであるが、学年の先生方がしっかりと話し合い作
り上げている授業であることがしっかりと伝わってきた。アンケートの結果が「得意」か
ら「苦手」になってしまった生徒もいたが、これはより質の高い取組になったことの現れ
とも考えることができる。何よりも先生方の意欲的な姿勢とチームワークのすばらしさが
大切であることを改めて実感することができた。

3 まとめ

坂本中学校の取組は、分析・伝達の力を伸ばす手立てを考え推進しており、これは言語
活動の充実及び体験的な学習の実践につながっている。発表者が聞き手からの助言を受け、
さらに繰り返していくことは学び方を身につける取組であり、この形式ができています。課
題の設定から情報の収集、整理・分析、まとめ・表現へといわゆる探究的な学習により近
づけていくために、今回の実践を今後、質的にどう高めていくか、そして「協同的な学習」
にするための手立てをさらに研究していくとよい。

中学校の「総合的な学習の時間」は学年職員全員であたることが多い。そのためには職
員間で意思統一、コミュニケーションを大切に教師集団の質を高めることも必要である。

4 グループ協議 テーマ：「探究的な学習活動を充実させるには？」

- 職業調べや職場体験ではゴール（発表）から逆算して考えてみる。だれに向けて発表
するのかを明確にするとよいのではないか。（整理・分析につながる）
- 現実につながる体験が必要。「失敗から学ぶこと」を大切に、教材研究をしっかりと
することが大切。
- 3年生などの先輩の発表を見ることなどから後輩が学ぶ機会を作る。テーマ設定の際
にはウェビングなどを実際に実施してみることもよい。
- 題材は様々に考えられるが、できるだけ身近で切実な課題を設定すること。また、生徒
にどうなってほしいというポイントをおさえておくこと。
- 学校独自の取組は様々ある。子どもの自己表現など考えると材はたくさんある。「自主
性を育てること」等、教職員で育てたい力、子ども像を共通理解しておくことが大切。